佐世保近郊

佐世保支社　(0956・22・9145)
江迎支局　(0956・65・2276)
東彼支局　(0956・82・5000)

街路灯で観光PR

渋谷　東京佐世保会が設置

【東京支社】東京都内有数の繁華街として知られる「渋谷センター街」（渋谷区）の街路灯に、佐世保観光の魅力をPRする「電照広告」が登場、通行客らの視線を集めている。

在京の佐世保出身者でつくる「東京佐世保会」と九十九島のパネルを街路灯四十八基に設置。佐世保にゆかりの音楽「西海讃歌」「美しき天然」を流しながら、音声でも佐世保の魅力を伝えている。設置期間は三月末まで。

光武佐世保市長もこのほど現地を視察し、同振興組合の高木總輔理事長らに感謝状を贈呈。市長は「（市長）退任の年に大きなプレゼントをもらった。市民を代表してお礼を言いたい」と笑顔で話した。

ガイモを収穫する子ども＝佐世保市萩坂町

廃木材から緑芽吹け

東彼杵の広域農道　基盤材に活用　県が試験施工

廃木材を利用した緑化基盤材をのり面に吹き付けた試験施工現場＝東彼杵町

【東彼】建設現場で大量に出る廃木材をリサイクル資材として再資源化するため、県は二十三日、東彼東彼杵町千綿地区に建設中の広域農道で、のり面の植物育成をサポートする緑化基盤材に活用できるかの試験施工を始めた。

県は昨年度から、環境産業の育成や循環型社会の構築を目指して長崎大と廃木材のリサイクル活用について共同研究。緑化基盤材のほか、歩行者にやさしい木チップの舗装材や、樹木を乾燥などから保護するマルチング材として再資源化できないか研究開発してきた。

また、リサイクル建設資材認定制度の在り方や認定基準も検討しており、将来的には認定制度の制定を目指しているという。

広域農道での試験施工では、約四百平方メートルののり面に、木チップや石こうなどを混合した緑化基盤材を機械で吹き付けた。今後、植物の発芽や育成などを検証していく。

緑化基盤材の試験施工は西海市大瀬戸町の林道工事でも実施。今後、長崎市や諫早市、佐世保市でも緑化基盤材や木チップ舗装材、マルチング材の試験施工をする。

談笑する豪コプスハーバー市の生徒（右）＝佐世保市役所

に実ったダイコンやジャガイモ、ハクサイなどを収穫した。

同市が推進する食育事業の一環。種まき、収穫、調理などを体験することで、食に対する関心を高めてもらおうと本年度初めて同校をモデル校に実施している。

同町の農業、岡勝さん(六二)の指導で一年生が昨年十月に種をまき、無農薬、無化学肥料で育てた。間引きなどもしながら生育を観察。同日は全校児童で収穫を体験した。

子どもたちは楽しそうにジャガイモを掘ったり、ダイコンを引き抜き、「でっかい」「折れちゃった」などと歓声。四年の宗方優人君(一〇)は笑顔で「ジャガイモは探すのが難しかった。冬眠中のカエルが出てきてびっくりした」。

収穫した野菜は家庭で調理し、普段食べている野菜との違いなどをアンケートにまとめる。

山田校長は「普段は野菜が嫌いな子も『食べてみたい』と興味を持っていた。自分で収穫し、味わうことで食品への感謝の気持ちや関心が高まると思う」と話した。

ン・ポール・カレッジのクレア・クックさん(一六)とエマ・オートンさん(一五)、リサ・ベイリーさん(一六)。

三人は昨年七月、豪州に派遣された市立愛宕中